



事業名：「街の中にいつも大学病院」をテーマにした「知と地」の連携による大学病院の構造転換

改革の背景と危機意識

島根大学医学部附属病院の立ち位置

島根県唯一の特定機能病院として、広域にわたる高度医療・三次救急医療を完結させる役割を担っており、島根県の医療における「最後の砦」としての責務を果たさなければならない

本院を取り巻く課題

●地域環境の厳しさ

全国に先駆けて進行する人口減少と少子高齢化に直面する「課題先進県」であり、医療需要の構造変化への対応が急務

●経営の三重苦

- ・医師の働き方改革：労働時間短縮と医療の質維持の両立が課題
- ・物価高騰：医療材料費や光熱費の上昇によるコスト増が経営を圧迫
- ・診療収益依存の限界：従来の「診療収益で教育・研究を支えるモデル」は、地域人口の減少とともに持続不可能

このままでは高度医療の維持だけでなく、大学病院の本分である「教育・研究」機能低下の恐れ

本事業および「島根大学医学部附属病院改革プラン」に基づき、
組織・診療・教育研究・経営の抜本的な構造改革を断行

基本方針 「知と地」の連携によるイノベーション

「島根大学医学部附属病院改革プラン」に基づき、病院長ガバナンスの下で業務効率化を断行し、創出したリソースを教育・研究へ再配分することで、持続可能な経営と医療提供体制を確立する。「街の中にいつも大学病院」を掲げ、大学としての創出した「知」や育成した人材を、「地」へ還元することを目指す

▶ 改革とリソース創出

タスクシフト/シェア、
医療DXを中核とした
業務改革の断行

リソースの
再配分

▶ 「知」（大学）の機能強化

基礎と臨床の双方向強化・
RWE創出
広域的・持続可能な
医療人材の育成

「地」への
還元

高度急性期・専門医療の質向上

攻めの予防医療
(前方支援・後方支援)

広域・持続的な
医療人材の地域定着

「知識から叡智へ、地域から未来へ」地域医療構想を念頭に、地域とともに持続可能な島根の未来を創る「知と地の連携モデル」を確立する



事業名：「街の中にいつも大学病院」をテーマにした「知と地」の連携による大学病院の構造転換

構想の具体的な取組

① ガバナンスによる全体最適化

- ▶AIとデータ活用による病床・重症度管理 AIによる予測やリアルタイムの可視化で診療科を越えた柔軟な病床配分を実施
- ▶コスト構造の可視化と経営基盤の強化 DPC別収益分岐点・算定漏れ防止・査定対策の徹底、生じた収益を教育・研究へ投資
- ▶DXによる患者サービス向上と教育環境の整備 アプリや自動運転モビリティの導入で利便性を高め、「選ばれる病院」としてのブランド価値を向上

② 医療資源の再編・見直し等事業規模の適正化

- ▶『出雲キャンパスワークライフ共創センター』の設置 病院の環境改善機能を一元化し、医学部・病院が一体となった支援体制を構築する
- ▶専門人材（ゲートキーパー）の育成 産業医や臨床心理士の育成を支援し、職員や学生の健康問題にいち早く対応できる体制を整える

③教育研究および高度医療へのリソース再配分

- ▶高度医療と特定領域のセンター化 「ロボット手術管理部」や「感染症対策センター」の新設および教員の配置、周産期・小児聴覚医療などの地域課題に対応した高度な医療モデルを構築
- ▶医学教育のデジタル化 バーチャル解剖、手術室のDXを進め、基礎と臨床を繋ぐ高度な空間認識能力を持った医師を育成する
- ▶出雲キャンパス研究推進・開発部門の設置 基礎・臨床・医療情報部を横断する新組織を立ち上げ、電子カルテ等のビッグデータ解析や橋渡し研究を強力に推進

「知」×「地」の
イノベーション

④地域医療構想に基づく医療機関の機能分化への参画

- ▶前方・後方連携の抜本的強化 前方支援と後方支援を強化し、大学病院を高度急性期機能へ特化させる
- ▶ICT・人材派遣による早期介入 施設への人材派遣とバイタル監視等のICT活用で、高齢者の急性増悪を早期検知し、予期せぬ救急搬送と病床逼迫を防ぐ
- ▶「心疾患イノベーションセンター」への発展 増加する心不全等のニーズに対応するため、専門教員を配置して診療・教育研究機能を強化する

⑤大学病院における人材の確保と地域医療機関への組織的な医師の輩出・交流等

- ▶「県内医療人派遣体制強化機構」の創設 医師だけでなく看護師や薬剤師など多職種を含めた医療人材全体の育成・派遣を統括する新組織を設置
- ▶データに基づく全県的な人材マネジメント 「医療人材情報管理センター」が各種調査データを活用して県内の配置状況を可視化、過不足を早期検知
- ▶高齢化に対応したリハビリ・栄養体制の強化 理学療法士のレジデント制度拡充や「スポーツメディカルセンター」との連携により、フレイル対策を含む包括的な運動・栄養指導を展開する

設定するKPI（R11年度目標値）

- 査読付論文数：30%増（対R6比）
- 常勤医師派遣応諾率：50%
- ロボット支援手術認定資格保有率：50%

- 科研費の採択件数：30%増（対R6比）
- 下り搬送調整日数：14日→6日へ短縮
- 予防医療等に係る企業との共同研究件数：7件



事業名：「街の中にいつも大学病院」をテーマにした「知と地」の連携による大学病院の構造転換

事業実施体制

地域

協議プラットフォームの構想

- ・ 県知事
- ・ 保健所・医師会
- ・ 地域医療機関 etc

- 関係者との協議会開催（毎月）
- 県知事、学長を交え本院の改革の評価、医療構想の進捗を確認（四半期）

地域医療機関
地域介護施設
地域包括
ケアセンター
etc

地域医療構想の実現に向けた連携

前方支援
後方支援

国立大学法人島根大学

(事業申請者)
学長

・ 研究不正防止対策本部 ・ 危機管理委員会 ・ ハラスメント対策室 ・ リスク管理委員会 ・ 監査室 等

法人全体としてのガバナンス強化、コンプライアンス確保

法人本部との橋渡し

医学部附属病院

(事業責任者)
病院長

事業全体のマネジメント
ガバナンス管理

副学長
(地域共創)

学長特別補佐
(医学研究担当)

副病院長
(医療安全)

副病院長
(改革)

副病院長
(看護・広報・
職場環境改善)

副病院長
(教育研究)

副病院長
(経営)

病院長のマネジメントのもと、5人の副病院長が改革の牽引役となり
本事業・大学病院改革プランによる改革を実行

診療改革

組織改革

教育・研究改革

経営改革

改革の中心となる組織

各診療科・部門

出雲キャンパス
ワークライフ共創センター

医学部

各専門部会

県内医療人派遣体制強化機構

出雲キャンパス
研究推進・開発部門

- ▶ 前方支援・後方支援の強化
- ▶ ロボット支援手術の診療科横断的な技術指導と安全管理体制の確立
- ▶ 高齢者施設へのカメラ・センサー設置による遠隔モニタリングと予兆検知

- ▶ 病院長主導による全体最適を追求するマネジメント体制への転換
- ▶ 職員・学生の健康管理と働き方改革の統合
- ▶ 全局的な人材マネジメント

- ▶ デジタル技術による医学教育の高度化
- ▶ 基礎医学部門との連携・人材強化
- ▶ 基礎と臨床の双方向交流による研究活性化

- ▶ 入院予測と病棟稼働状況の可視化による病床配分の柔軟化と稼働率向上
- ▶ 退院サマリー作成支援、RPAによる定型業務自動化
- ▶ DPCデータ分析、算定漏れ防止・査定対応強化